

ボランティア通信 2016.2 Vol.190



な か ま

発行：交野市ボランティアグループ連絡会
（交野市ボランティアセンター内）

V連絡会 E-mail vltr94@leto.eonet.ne.jp
センター E-mail katabora@nike.eonet.ne.jp

ボランティアを

紹介してほしい人

ボランティア活動を

はじめたい人

ボランティアセンターに

お問い合わせください

(☎894-3737)



大勢の参加者で盛況だった研修会

避難所運営の実態と課題

障がい者や子ども目線の防災&女性の活用や幅広い住民参加を

1月15日（金）、災害ボランティアコーディネーター研修がゆうゆうセンターで開催され、「被災地で支援を必要とする人々と支援の実際」というテーマで、NPO法人ゆめ風基金・理事の八幡隆司氏が、阪神淡路大震災や東日本大震災など日本各地の災害に際し、被災地での貴重な体験を基に避難所の実態や課題、そしてみんなで備える防災について語られた。

避難所は我慢大会

被災地における避難所運営にあたって、障がい者や子ども、高齢者など支援を必要とする人々への配慮が見落とされることがある。その結果、避難所では多くの言えない我慢が多くなる。みんな我慢しているのだから我慢はまだ取られ、避難所は我慢大会になってしまった。結果としてエコノミ

「症候群で助かるべき命が亡くなる。子どもたちがPTSD（※）になる。水分補給を我慢してトイレに行くことを減らす高齢者など課題が山積している。顔の見える関係作り

災害発生に備えて避難所運営の訓練は必須である。試行錯誤を繰り返しながらやればよい。健康者だけでなく障がい者も含めた地域の人たちが、様々な役割を持って集まること割を重要だ。普段から障害種別を超えて連携する関係を作り、訓練を通って災害に備えねばならない。そのためには人と人のつながりがなければできない。

（2面に続く）

登録ボランティア交流会スナッフ

～1月30日(土)ゆうゆうセンター4階多目的ホール～



ゲームに、フォークダンス、司会者のパフォーマンス、大いに楽しみました



傾聴ミニ講座

(ボランティアサロンと同時開催)

よい聴き手になるために、傾聴の基本など分かりやすく学ぶことができます。お気軽にお越しください。

日時 3月10日(木)10～12時
場所 ボランティアセンター2階
講師 鴨志田 五男さん
参加費 無料

還付金詐欺にご注意!

市職員を名乗る者より、「健康保険課の〇〇ですが、年度末に還付金を請求されなかった方に、還付金の案内をしています。つきましては氏名と保険番号を確認したいのですが」という電話があり、ご本人が市役所に確認をしたところ〇〇という職員は在籍しておらず事なきを得ました。同様の電話が他にもあり、お互いに気を付けましょう。

用語解説

P T S D (Post-Traumatic Stress Disorder)とは 心的外傷後ストレス障害といわれ、非常に大きなショックを受けた後の憂鬱・恐怖・悪夢・性格変化などの一連の障害を指します。

訓練をお勧めしたい。く、地域全体を包み込む訓練を。さ、子どもにも訓練を。さら、子どもにも訓練を。この子が有効である。的、いい経験を通して。だ、訓練を通して。マ、ニューアルの作成も大切だが、訓練を通して。災害時における避難所。子どもにも訓練を。訓練を包み込む訓練を。訓練をお勧めしたい。

こどもも訓練に参加

（1面からの続き）
者も被災者でも、すべての人が自分のできる範囲のことが必要だ。それには日頃か顔の見えるご近所付合

ボランティアフリー&要約筆記を体験

12月20日(日)、第8回子どもボランティア展示活用室で開催されました。小学4年生から小学6年生まで合わせて8人が参加、ボランティアアグループ連絡会より18人が子どもたちのサポート役として共に行動しました。

午前中は、朗読グループ「あい」のみなさんが中心になって、児童書「ぼくはうちゅうじん」の朗



ノートテイクで筆談体験

読とユニバーサルデザインについて学んだ後、屋外に出てアイマスクをつけての歩行と車イス体験をしました。昼食は、アイマスクをつけてお母さんの手作り弁当を頂きました。お弁当と悪戦苦闘している子どももいましたが、なんとか完食できたようです。

昼食後は、要約筆記「星の会」による筆談体験です。中途失聴者・難聴者の当事者にも先生になつていただき、子どもたちが質問事項を用紙に書きながら、実際に筆談を体験しました。そして、用紙とペンがあれば筆談ができるということを理解してもらいました。ボランティアは特別なものではなく、身近なことでできるということを学べた一日となりました。

ボランティアインタビュー40



横山友子さん
(ふれんズ)

ボランティアを始められたきっかけは

ご近所のお友達がふれんズに入っておられ声を掛けてくれました。ちょうど子育ても終わったところだったので、平成8年から始めて20年になります。

やつてみての感想は?

最初は不安がありました。最初は、とても良い利用者さんばかりで雑談しながら行う作業は、楽しくお手伝いしています。障がい者の作業所という事で躊躇される方がありますが、私には向いていると思います。

活動の場所は?

いわふね作業所とミルキーウェイは月1回、必ず行きます。倉治作業所とやわらぎは依頼があり次第です。明星(藤が尾)で月1回、習字教室(硬筆・ぬり絵)のお手伝いに行っています。

趣味は?

市の体操教室に週1回、編み物同好会に月2回、インディアカで週1回、汗を流しています。

あなたにとってボランティアとは?

活動を通して、たくさんのお友達が出来ました。外向的な私にとって、送り出してくれる家族に感謝です。これからは健康第一で細く長く続けていければと思っています。



登録ボランティアのみなさまへ

ボランティア登録意思確認のご案内

ボランティアグループに

所属している人は

グループリーダーへ活動の継続・休会・退会のいずれかを連絡してください。また、連絡先（住所・電話番号等）の変更がある場合は、その旨を連絡してください。確認後、必要がある人にはセンターからお問い合わせをさせていただく場合があります。

個人で登録した

ボランティアの人は

センターから往復ハガキをお送りし、活動確認を行いますので、継続・休会・退会のいずれかを連絡してください（2月26日までにハガキの返送をお願いします）。

センターを通して、定期的に活動依頼のある方にはハガキによる活動確認を行

いませんで、休会や退会の意向がある場合は、その旨をセンターへ連絡してください。

ボランティア活動保険

ボランティアセンターへの依頼に対し、ボランティア活動をすると確認された時点で保険加入の手続きを行います。その他で、活動を始められる際はセンターまでご連絡ください。また、活動していただくにあたって、依頼元（個人・団体）からセンターへ依頼書を提出していただく必要があります。詳細はセンターへお問い合わせください。



リーダー会議

(1月25日)

☆連絡会より

・登録V交流会について
1月30日（日）開催に向けての準備状況、交流会の役割分担等について報告、リーダーの協力要請をしました。

・指名委員会報告

・「なかま」レポーターについて：各グループからの選出を依頼しました。

☆各グループより

・星の会・陽だまり・KIC・糸ぐるま・玉手箱の各グループから近況報告と今後の予定を報告いただきました。

☆センターから

・平成28年度登録ボランティアグループメンバーの活動確認について
・地域福祉振興助成金について
・給湯室の物品整理及び各グループの物品保管場所の整理を依頼しました。
・ボランティアサロンの運営協力について



昨年の12月。孫が2歳の誕生日を迎えるので、夫婦でおみやげを持って東京へ行きました。

久しぶりに会うので、泣かれるかと心配していましたが、着くなり「じいじい」「ばあばあ」と単語だけど、次から次へとおもちやや絵本を出して話しかけてくれ、もう嬉しくて嬉しくて。主人はアイパッドで孫の動きを撮りまくりで、帰りの新幹線の中ではニヤニヤ顔で見っていました。いつまで孫の成長を見守れるか。

今年も「病院」「薬」と仲良く上手に付き合ひ、笑顔でありがとうを忘れずに暮らしたいと思えます。ところどころで昨年の一文字漢字は「安」でしたね。皆さんは？ 私は「嬉」です。「ひまわり」